

3学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

3学年通信 57号 通算 237号

2017. 9. 19 (火) +120点

山形県立米沢興譲館高等学校

創立131周年記念講演会 講師 廣瀬 純 氏

「ふるさとが育むもの

～創作ミュージカルづくりとその背景～

【profile】

山形県米沢市生まれ。

舞台プロデューサー、シンガーソングライター。

1990年にSCSミュージカル研究所を設立。プロデューサーとして、近年は2011年に平泉ミュージカルドイツ(フランクフルト)公演、2012年に七ヶ浜ミュージカルの東京(日生劇場)公演などを成功させている。また、役者として2013年には宮城県などが主催する慶長遣欧使節団出帆400年記念ミュージカル『常長の祈り』では支倉常長役に主演。震災後発刊された詩集『ありがとうの詩』(河北新報社刊)では付属CDに作曲家・歌手として参画している。SCSミュージカル研究所代表、有限会社純クリエイション代表取締役、七ヶ浜国際村舞台芸術育成事業、米沢市民ミュージカル伝国座、仙台市民ミュージカル各プロデューサー。東北学院大学非常勤講師、東北大学非常勤講師。

歌津町教育文化功労者(1999)、米沢市芸術文化協会特別賞(2015)



18年間過ごした「家庭」を去ろうとしている、

そして近い将来新たな「家庭」を持つ皆さんに贈ります

皆さんはいくつの顔を持っていますか。少なくとも3つの顔を持っていることと思います。

1つ目は「家庭人」としての顔です。私は親であり、夫でもあります。たまに息子だったり、弟だったり、婿だったり、甥っ子だったりもします。2つ目は「地域人」としての顔です。小さなところでは町内会に所属する一員であり、地区民、市・町民、県民でもあります。3つ目は「職業人」としての顔です。生徒の皆さんにとっては「興譲館生」であることがこれに当たるでしょう。

今年に入り、私は2つの役目を終えました。

1つは子どもの部活動の保護者会長です。これは親として関わってきた関係上、「家庭人」の延長上の活動として、家庭内でも理解を得てきました。地元インターハイ出場をめざす子どもたちを後支えし、家族・地域の皆さんから応援してもらえるような環境づくりをすることが任務と思い、1年間務めてさせていただきました。目標達成はなりませんでした。そのことを通してたくさんの方々と関わらせていただいたことは大きな財産になりました。

もう1つは、母校の同窓会実行委員です。これは上記の3つのどれにもあてはまらないものなのですが、34歳のときから、39歳、45歳と続けてきてもう4回目を迎えることから、家庭でも理解を得ていると思っています。今年は私の年次に懇親会を取り仕切る役割が課せられていました。3つのどれとも利害関係が絡まない活動だけに、「なぜ自分がこれをしなければならないのか」と自問することもありました。でも、地元に残った者の責務として、同窓生の喜ぶ姿から、そして積み上げられてきた伝統の力、いろいろなことを感じるのです。800人が集い、語らう姿は圧巻でした。そしてそれを何とか成し遂げることができたときに、何とも言えない達成感を覚えました。

さて、私は最近「私の夫は仕事ができない」というドラマにハマっていました。職場で自己実現できない主人公が自身のやり方で徐々に仕事を成功させ、仕事ができる人間へと変わっていく話です。主人公に子どもができ、仕事ができるようになったのに子どもが足かせとなって仕事をセーブしているのでは、と妻から言われたときに言った言葉が、「今、腕の中にいる子はいつまでも腕の中にはいない。だから今、仕事をやっている場合ではない」。私を保護者会長として突き動かしてきた力はこれなんだ、と思いました。

さらに「コードブルー」というドラマにもハマっています。「この仲間となら、また一步踏み出せる」というコピーにもある通り、「チームとして力を発揮する心地よさ」があるのです。ガッキーというリーダーがいて、山Pや戸田恵梨香は腕に覚えのある実務的なスペシャリスト、浅利陽介というムードメーカーがいて、比嘉愛未という名フォロワーがいる。今回の同窓会実行委員の仲間もそんな仲間でした。同期の組織的な活動に関わって5年。利害関係のない仲間との活動は楽しいものでした。

いろいろと話してきましたが、自分のことを書き記して気付くのが「所属することの安心感」です。「家庭」「地域」「職場」の足かせにならないよう、極力それ以外の組織に所属することを避けてきました。唯一所属しているのが、あるボランティア組織です。利害関係のない方々と好きな領域の話で会話を弾ませることがとても楽しい時間です。私もあと10年で定年を迎え、「職場」がなくなります。「所属できる安心感」とともに、「第四の領域」のさらなる充実に向けた10年にしなければならぬと考えています。皆さんも「第四の領域」を持ってみませんか。そして、「家庭」「地域」「職場(学校)」それぞれの領域での自分のあり方を考えるきっかけにいただければ、とってもうれしいです。

*保護者の方からお手紙を頂きました。今日という日に相応しい3年生諸君への素敵なメッセージだと思います。